大竹政和様

突然お手紙差し上げます失礼の段、ご寛恕下さい。。
この連絡先ー宛先は、ＭＡさんから伺いました。

私は、揖斐川流域で「徳山ダム建設中止を求める会」という市民団体を立ち上げ、そのの事務局長をしている近藤ゆり子と申します。
実は、私がMさんに「ダム湛水による誘発地震について書いて欲しい。大竹政和さんがどこで何をしていらっしゃるのか調べて下さい」と資料を渡して取材して頂きました。

いきなり、ですが、「牧尾ダムと長野県西部地震について」（あるいは一般的に「ダム湛水と誘発地震について」でも）、名古屋市でご講演をお願いできませんでしょうか？

同封の新聞記事コピー（資料１）は、「是非この問題をはっきりさせて欲しい。私たちの離村が正しかったのかどうか？　ダム完成後に大きな災害を引き起こすのではないか、と心配なままでは居られない。」と１９９６年に旧徳山村の方から託されたものです（その方のお立場は、ダム賛成でも反対でもありません。「やむを得ず移転補償に応じた」ということです）。託されてから８年間、情報を眠らせたまま、ずっと心にひっかかっていました。
徳山村の方々は、１９８４年以前から、「ダム湛水による誘発地震」に大きな関心を寄せていました。徳山団研（地団研の一つ）も動き出していました（資料２）。
けれど、私が徳山ダム問題に関わり出した１９９５年には、徳山団研は姿が見えなくなっていました（今でもインターネットを検索するとその名称は残っていますが、連絡がつきません）。研究すること自体が「タブー視」され、封殺されたとしか思えません。

建設省（国交省）の対応は、１９９５年に参議院環境特別委員会での答弁（資料３）の域を一歩も脱しません。要するに「２０億立方メートルを超えるダムなら海外に例があるが、日本にはそんな大きなダムはないから大丈夫」という全く非科学的な答えです。

私とて「徳山ダムに湛水したら必ず大きな誘発地震が起こって人命に危険が及ぶ」と断言するものではありません。しかし、奈良県川上村の大滝ダムの地滑り問題でも「１９７０年代前半にあれだけ住民側が地滑りの可能性を指摘したのに」と残念でなりません。問題が指摘されてから本体工事にかかるまでにいくらでも調査のやり直しをする時間はあったはずです。建設省（国交省）が、住民の不安に対してもっと真摯に対応していたら、試験湛水まで行きながら現実に地滑りで住宅被害を引き起こし「使えないダム」になってしまう、というとんでもないことは未然に防げたはずです。
徳山ダムも、水道水・工業用水について具体的に使うあてはありません。発電所の建設も手をつけていません。湛水を急ぐ必要は全くないのです。
１９８４年長野県西部地震をきちんと検証し、徳山ダムについても時間をかけて調査してほしい、というのが私たち流域住民の（そして故郷を出た徳山村民の－徳山ダムが災害を引き起こしたのでは哀しすぎます）願いです。

もうすぐ長野県西部地震から２０年目の日が来ます。
国交省中部地整は、地震による土砂災害の問題として、シンポジウムを行うことを、最近知りました（資料４）。あの地震では名古屋市（市職員）の方も多く亡くなりました。そして牧尾ダムは、名古屋市ー愛知県にとって重要なダムです。
名古屋、１９８４年長野県西部地震と牧尾ダム湛水の関係について、本当のことを知りたい、というのは、多くの人の希望するところです。

この地域で「ダム湛水と誘発地震」のお話をされれば、必ず「徳山ダムはどうなんだ？」という質問にさらされることになります。徳山ダムは揖斐川断層の上に１６０ｍもの水を貯めることになるのですから、とても不安なのです（資料５）。

科学者としての先生のお立場では、個別・徳山ダムについては必ずしも明言できないのではないか、と思います。それはそういうふうにはっきりおっしゃって下さればで良いと思います。まして徳山ダム賛成・反対は、どちらででも結構です。
私たちとしては、大竹先生の講演をきっかけに、真摯に調査・研究が行われることを期待したいのです。

なお、ご講演頂く場合、主催団体としては、「徳山ダム」に言及する名称は避けるつもりです。
また、何百人も集める大講演会を開催する力はありませんし、「薄謝」しか差し上げられないことも予め申し上げておかなくてはなりません。

旧徳山村の方々の３０年来の思い、特に１９８４年長野県西部地震から２０年の思いをお察し下さり、さらに揖斐川流域住民としての私たちの不安と懸念をお察し下さって、ご講演をご検討頂ければ幸いです。

２００４年８月〇日

徳山ダム建設中止を求める会（代表：上田武夫）
事務局　近藤ゆり子
岐阜県大垣市田町 **1-20-1　0584-78-4119(fax 兼)**